

なるほど！つみたてNISA 第1回

2017年8月24日

全2頁

つみたてNISA とは何か？

個人が投資信託の積立で効果的に資産形成ができる制度

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

つみたてNISAとは、個人が投資信託の積立で得られた利益について、最大20年間非課税となる制度です。定期的な積立は、着実に貯蓄を増やすことにつながります。つみたてNISAで行う投資信託の積立は、長期間継続すればある程度の運用益を得ることも期待できます。さらに、得られた運用益が非課税となるので、効果的に資産形成ができます。

つみたてNISAとは

つみたてNISAは、個人が投資信託の積立で得られた利益が、最大20年間非課税となる制度です。

つみたてNISAを利用できるのは、2018年から2037年までの20年間、制度を利用できる人は、日本に住む20歳以上の人、全員です。積立を行える金額は、年間40万円以内となっています。これらについてまとめると、次の図表のようになります。

図表1 つみたてNISAとは

いつ？	2018年から2037年までに
誰が？	20歳以上の人
何を？	投資信託を
どのように？	積立で（定時・定額で）
いくら？	年間40万円以内

買付けた場合、

利益（分配金・譲渡益）が買付け後**最大20年間非課税**になる制度

（出所）大和総研作成

投資信託の積立とはどういうこと？

つみたて NISA の大きな特徴は、定時・定額の積立であることと、投資信託を利用することの 2 つがあります。

定時・定額の積立とは、例えば毎月 25 日に 3 万円など、時期と金額を決めて定期的に積み立てることです。家計の余裕があるときに積立をしようと思っても、人間の意志は弱いもので、手元にお金があるとつい使ってしまう、コツコツと貯蓄を増やしていくのは簡単なことではありません。予め時期と金額を決めて、給与やボーナスが支払われた際に先取りして貯蓄をすれば、手元に残っているお金で生活しようという意識が働き、貯蓄を増やしやすいのです。

定期預金を使って先取り貯蓄を行うこともできますが、元本の金額は安定的に増やすことができても、昨今の金利水準では、運用益を得ることはほとんど期待できません。

預金をするのではなく投資を行えば、より高い運用益を得ることが期待できます。もちろん、投資にはリスクはつきもので、手数料等のコストもかかるものです。しかし、「つみたて NISA 対象の投資信託」は十分な分散投資によってリスクを抑えており、かつ、手数料等のコストも低水準に抑えられています。このため、継続的に買付けを行って長期間保有すれば、ある程度の運用益を得ることが期待できるのです。

投資信託の積立は、「つみたて NISA」の制度を使わなくても実行できますが、その場合は運用益に対して原則 20.315%の税金がかかります。「つみたて NISA」を利用して投資信託を行えば、運用益が 20 年間非課税となりますので、効果的に資産形成ができるのです。

図表 2 つみたて NISA の特徴

なかなか貯蓄できない	➡ 「先取り貯蓄」でコツコツ積立
定期預金では利率が低い	➡ 投資をして運用益獲得を目指す
投資はリスクが大きい？	➡ つみたて NISA 対象の投資信託は リスクを抑え、コストも低水準
投資は手数料がたくさんかかる？	

(出所) 大和総研作成

以上が「つみたて NISA」の制度概要ですが、そもそもなぜ積立が大事なのか、投資信託はどのようなものなのか、なぜ「つみたて NISA 対象の投資信託」はリスクを抑えたものになっているのか、など、分からない点がいくつもあつたと思います。でも、安心してください。本シリーズでは、これらについて 1 つずつ、分かりやすく説明していきます。

(次回予告：「先取り貯蓄」がなぜ重要なのか 8 月 31 日 (木) 更新予定)

以上